

明治安田生命 夏に関するアンケート調査を実施！
新型コロナウイルスの影響から夏休みに使う金額は調査開始以来、過去最低に！
旅行や帰省などの予定が立てられず「我慢の夏」に！
今年の夏休みを表す漢字のトップ3は「耐」「静」「忍」！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、夏休みを前に、夏に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 夏休みについて

(1) 夏休みに使う金額

… (P5)

■夏休みに使う金額は2006年の調査開始以来、過去最低に！

約半数の人が夏休みに使う金額を昨年より「減らす」と回答！

新型コロナウイルスによる外出自粛の影響からお金の使い道に変化！？

- ・今年の夏休みに使う金額の全体の平均額は「65,157円」と、昨年から「2,914円」減少し、2006年の調査開始以来、最低額に！
- ・今年の夏休みに使う金額は、全体の約半数（45.6%）が昨年に比べ「減らす予定」と回答！
- ・さらに、「減らす予定」と回答した人のうち約6割（63.0%）が「新型コロナウイルスによる外出自粛の影響により使い道がないため」と回答。次いで、「将来の不安のため貯金に回し、使用したくないため」（32.9%）と回答した人が多く、新型コロナウイルスの影響による経済環境や雇用環境の悪化から将来への不安感が高まっていることも要因か！？

明治安田総合研究所 チーフエコノミスト 小玉 祐一が「夏の消費」について分析！

(2) 夏休みの過ごし方

… (P7)

■約7割の人が、新型コロナウイルスが夏休みの計画に「影響あり」と回答！

「影響あり」と回答した人のうち、約半数が予定を立てられず！

旅行や帰省の中止もあり、思い通りの過ごし方とはいかない「我慢の夏」に！

- ・新型コロナウイルスの感染拡大が今年の夏休みの計画に「影響がある」と回答した人は全体の約7割（70.2%）を占める結果に。そのうち「予定が決められない」と回答した人が約半数（48.3%）を占め、1ヵ月程度先の予定が立てられないと考える人が多い結果に！
- ・また、新型コロナウイルスの「影響はない」と回答した人も含めた全体における今年の夏休みの過ごし方は、「自宅でゆっくり」が約6割を占める一方、「帰省」（対前年▲6.1ポイント）、「国内旅行」（対前年▲6.3ポイント）、「海外旅行」（対前年▲3.1ポイント）などの移動を伴う過ごし方は、新型コロナウイルスの影響を受けて割合が減少！
- ・旅行や帰省計画の中止や旅行の行き先変更、レジャー計画の中止などを決めている人も多く、思い通りの夏休みの過ごし方とはいかない「我慢の夏に」！？

(3) 夏休みの日数 … (P 9)

- 今年の夏休みの平均日数は「7.9日間」と例年より短縮！
夏休みの日数が「減る予定」と回答した人は昨年から2倍以上に増加！
小中学校等の夏休み短縮の影響から例年より長期休暇の色合いが薄まる！？

(4) 今年の夏休みを表す漢字 … (P 10)

- 今年の夏休みを表す漢字のトップ3は「耐」「静」「忍」！
今年の夏休みは「静」かに「耐」え「忍」ぶことが必要！？

(5) 来年の夏休みの過ごし方 … (P 11)

- 約6割の人が来年も新型コロナウイルスの影響が残ると予測！

2. 夏のボーナスについて … (P 12)

- 今年の夏のボーナスは4人に1人が「減る予定」と回答！
ボーナスからお小遣いをもらっている夫は昨年の3人に1人から4人に1人に減少！
夫にお小遣いをあげる妻のうち2割がお小遣い金額を「減らす」と回答！
世のお父さんにとっても「我慢の夏」に！？
- ・夏のボーナスは昨年より「増える予定」と回答した人が全体の3.0%にとどまった一方で、およそ4人に1人(24.3%)が「減る予定」と回答
- ・夏のボーナスのうち、夫に夏のボーナスから「お小遣いをあげる予定」と回答した妻の割合はわずか4人に1人(25.1%)と、昨年の3人に1人(31.4%)から6.3%減少する結果に。さらに、そのうち2割がお小遣いを「減らす予定」と回答！

明治安田総合研究所 チーフエコノミスト 小玉 祐一が「夏のボーナス」について分析！

3. お盆玉について … (P 14)

- お盆期間のお小遣い「お盆玉」は約3人に1人が認知！
新型コロナウイルスによる帰省の中止が影響し、「渡す予定」の人は半減！
子どもたちにとってはお小遣いがもらえない寂しい夏に！？

4. 夏の帰省について … (P 15)

- 帰省をすると回答した人の約6割が帰省の手段に「自動車」を選択！
帰省手段を選ぶ基準は「安さ」から「安心・安全」にシフト！？
- ・今年の夏休みに帰省をする人の帰省手段は、「自動車」と回答した人が60.0%と最も多く、昨年より6.6ポイント増加する結果に！
- ・「自動車」を選んだ理由は「安いため」が29.8%と、昨年より10.4ポイント減少した一方、「密を避けるため」と回答した人が26.3%に！

対象者の属性

1. 調査対象

20-50代：1,120人

(注)「3. お盆玉について」のみ、20-70代：1,680人のデータを使用

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2020年6月15日(月)～6月18日(木)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	140	140	140	140	140	140	840
女性	140	140	140	140	140	140	840
計	280	280	280	280	280	280	1,680

【 目 次 】

<u>1. 夏休みについて</u>	
(1) 夏休みに使う金額	．．．．． 5 ページ
(2) 夏休みの過ごし方	．．．．． 7 ページ
(3) 夏休みの日数	．．．．． 9 ページ
(4) 今年の夏休みを表す漢字	．．．．． 10 ページ
(5) 来年の夏休みの過ごし方	．．．．． 11 ページ
<u>2. 夏のボーナスについて</u>	．．．．． 12 ページ
<u>3. お盆玉について</u>	．．．．． 14 ページ
<u>4. 夏の帰省について</u>	．．．．． 15 ページ

1. 夏休みについて

(1) 夏休みに使う金額

**夏休みに使う金額は2006年の調査開始以来、過去最低に！
約半数の人が夏休みに使う金額を昨年より「減らす」と回答！
新型コロナウイルスによる外出自粛の影響からお金の使い道に変化！？**

- 今年の夏休みに使う金額について聞いてみたところ、全体の平均額は「65,157円」と昨年から「2,914円」減少し、2006年の調査開始以来、最低額となりました。これは史上初の10連休となったGWの反動により最低額を更新した昨年に続き、2年連続の減少となります。また、男女別にみると、女性は「63,275円」と、ほぼ昨年から変わらなかったものの、男性は「67,039円」と、昨年から「5,806円」減少する結果となりました。
- また、夏休みに使う金額の変化について聞いてみたところ、全体の約半数(45.6%)の人が今年の夏休みに使う金額を昨年に比べ「減らす予定」と回答しました。
- 続いて、今年の夏休みに使う金額を昨年に比べ「減らす予定」と回答した人にその理由を聞いたところ、「新型コロナウイルスによる外出自粛の影響により使い道がないため」と回答した人が63.0%と最も多く、新型コロナウイルスの終息の見通しが立たないなか、旅行やレジャーなどの計画を立てられない人が多くいることが分かりました。
- 次いで「将来の不安のため貯金に回し、使用したくないため」(32.9%)、「収入が減少したため」(26.2%)と回答した人が多い結果となり、新型コロナウイルスの影響による経済環境や雇用環境の悪化から将来への不安感が高まっていることも、夏休みに使う金額を減らす要因となっているようです。
- 一方、夏休みに使う金額を昨年に比べ「増やす予定」と回答した人は全体の2.5%にとどまる結果となりました。10万円の「特別定額給付金」の支給などもありましたが、新型コロナウイルスの終息が見込めないなかでは、夏休みに使う金額を増やそうという動きには繋がっていないようです。

～チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 チーフエコノミスト 小玉 祐一

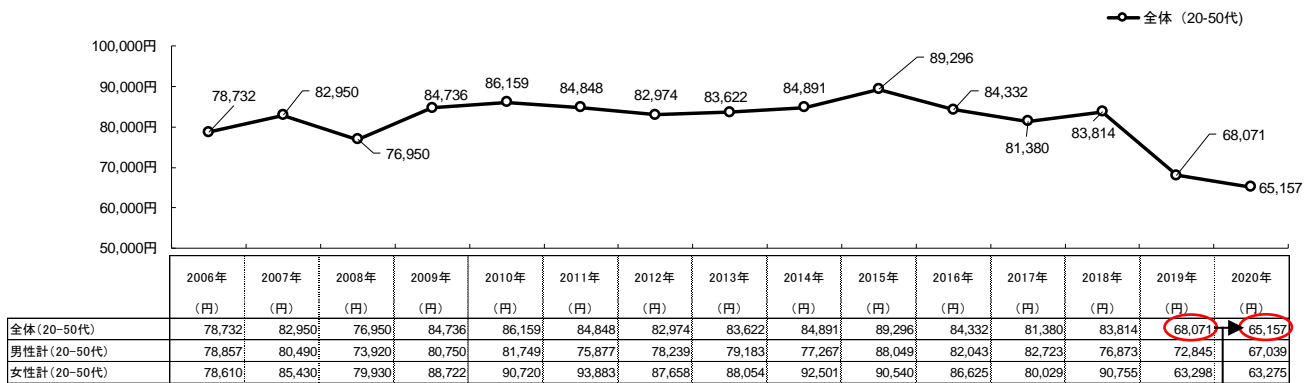


●今年の夏の消費について

今回のアンケートでは、夏休みに使う金額が2年連続で減少しました。緊急事態宣言下で活動自粛を余儀なくされた企業を中心に、多くの企業が夏のボーナスの減額を実施しており、予想された結果といえます。男女別にみると、男性が昨年から5,806円の大幅減となったのに対し、女性はほとんど減っていません。昨年度は女性の落ち込み幅が大きかったですが、家計の切り詰めが限界に達した主婦が、夫の小遣いを減らす予定にしている(P12参照)ことが、こうした結果に繋がっているのかもしれませんが。

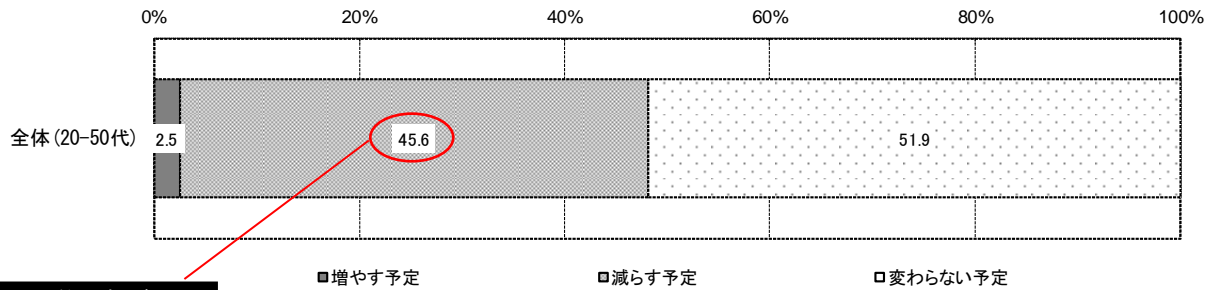
もっとも、使う金額を減らす理由で一番多かったのは、「外出自粛で使い道がないため」というものです。この点、Go Toキャンペーンが、消費マインドの委縮に歯止めをかけるかどうか注目されます。

■夏休みに使う金額の推移



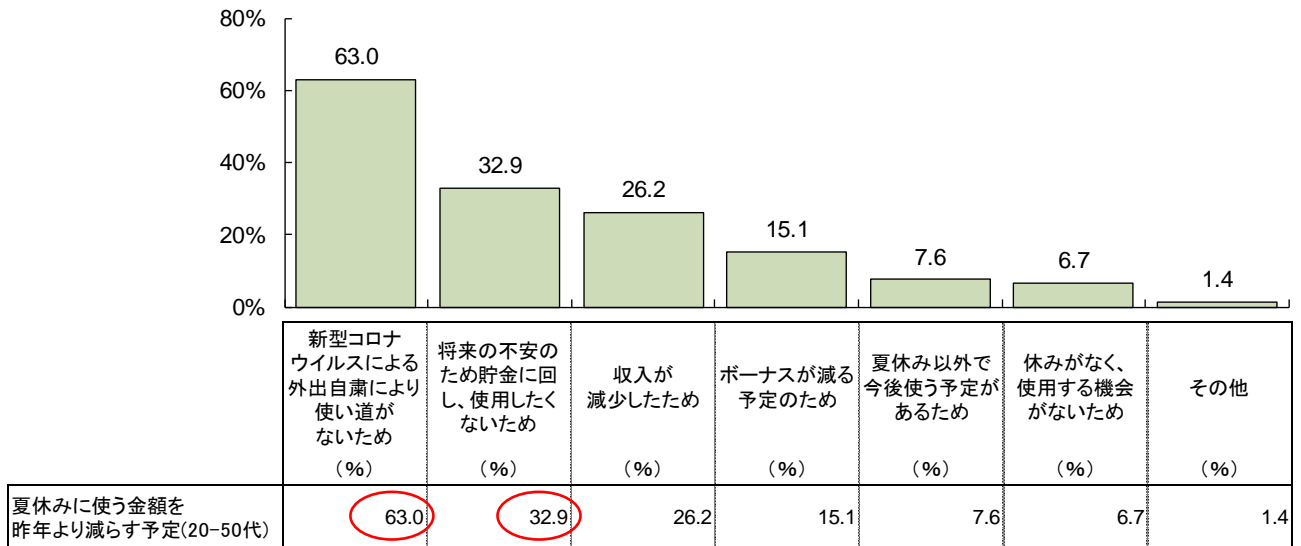
昨年から2,914円減り
2年連続最低額を更新

■昨年と比較した夏休みに使う金額の増減



約半数が
「減らす」と回答

■夏休みに使う金額を「減らす」理由（複数回答）



1. 夏休みについて

(2) 夏休みの過ごし方

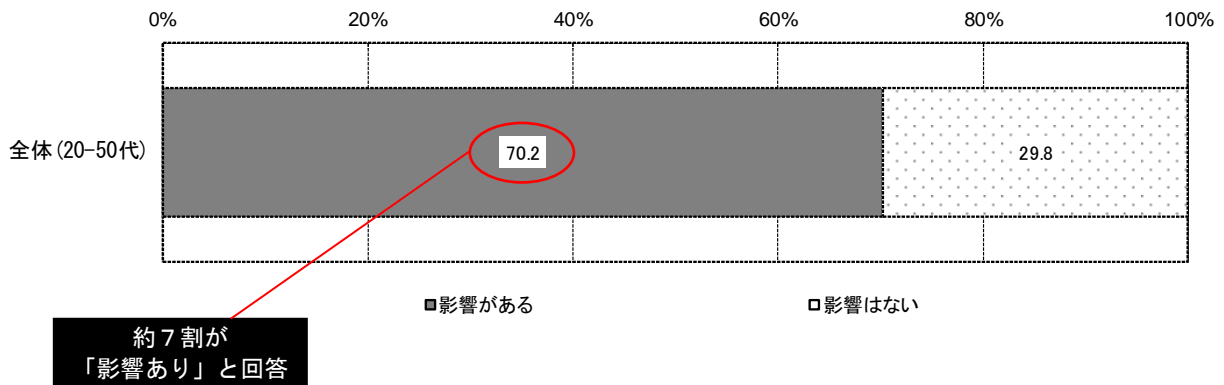
**約7割の人が、新型コロナウイルスが夏休みの計画に「影響あり」と回答！
 「影響あり」と答えた人のうち約半数が予定を立てられず！
 旅行や帰省の中止もあり、思い通りの過ごし方とはいかない「我慢の夏」に！**

○今年のGWは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大半の人が自宅待機を余儀なくされました。徐々に外出をする人が増えてきてはいますが、いまだ新型コロナウイルスの終息の見通しが立っていないなか、今年の夏休みの過ごし方について調査しました。

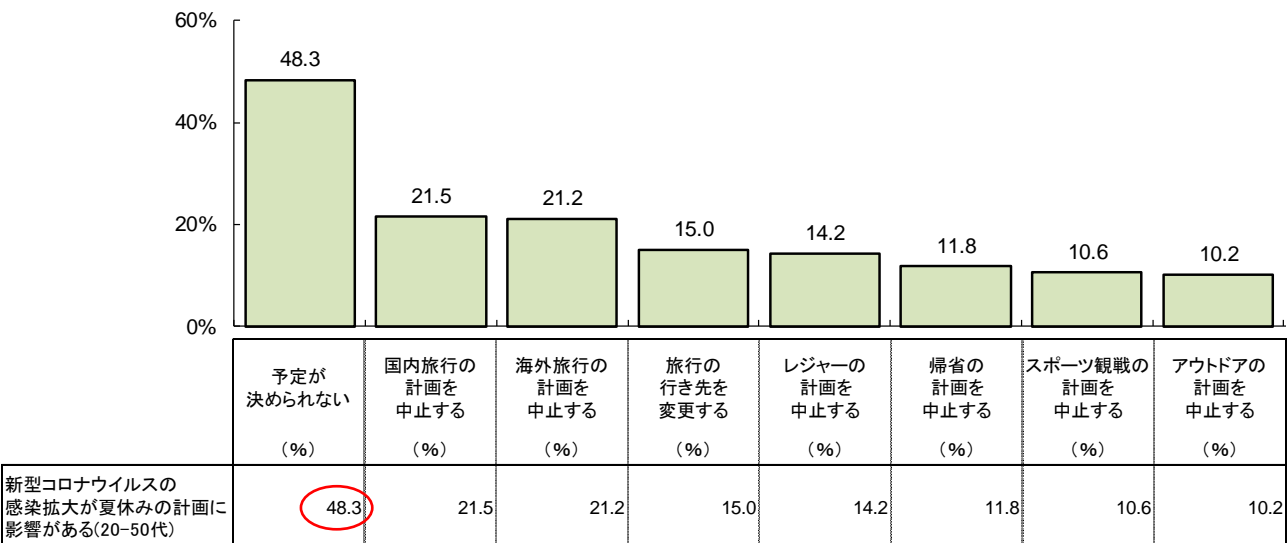
○新型コロナウイルスが夏休みの過ごし方に与える影響について聞いてみたところ、新型コロナウイルスの感染拡大が今年の夏休みの計画に「影響がある」と回答した人は全体の約7割（70.2%）を占める結果となりました。

○次に、「影響がある」と回答した人に、夏休みの計画への具体的な影響について聞いてみたところ、「予定が決められない」と回答した人が約半数（48.3%）を占め、新型コロナウイルスの終息の見通しが立たないなか、1ヵ月程度先の予定を立てられないと考える人が多いことが分かりました。

■新型コロナウイルスの感染拡大が今年の夏休みの計画に与える影響



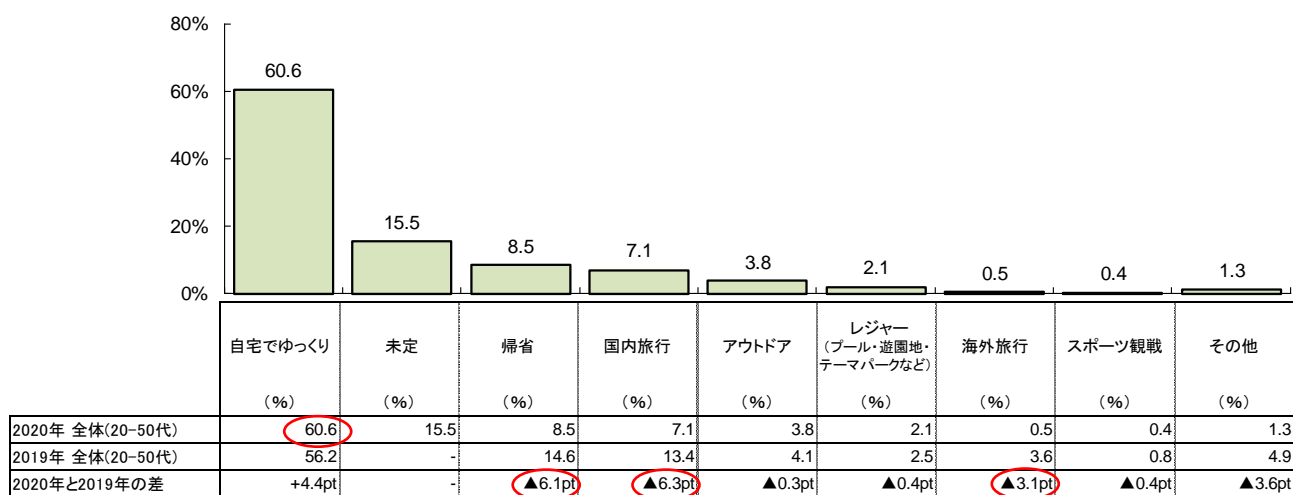
■新型コロナウイルスの影響をふまえた夏休みの計画への具体的な影響（複数回答）



○また、新型コロナウイルスの「影響はない」と回答した人も含めた全体に、今年の夏休みの過ごし方を聞いてみたところ、「自宅でゆっくり」過ごすと回答した人が全体の約6割（60.6%）を占め、最も多い結果となりました。一方、「帰省」（対前年▲6.1ポイント）、「国内旅行」（対前年▲6.3ポイント）、「海外旅行」（対前年▲3.1ポイント）など移動を伴う過ごし方については、新型コロナウイルスの影響を受けて計画を中止する人が多くみられ、昨年度より全項目において割合を減らしています。

○旅行や帰省計画の中止や旅行の行き先変更、レジャー計画の中止などを決めている人も多く、思い通りの夏休みの過ごし方とはいかないようです。

■今年の夏休みの過ごし方



1. 夏休みについて

(3) 夏休みの日数

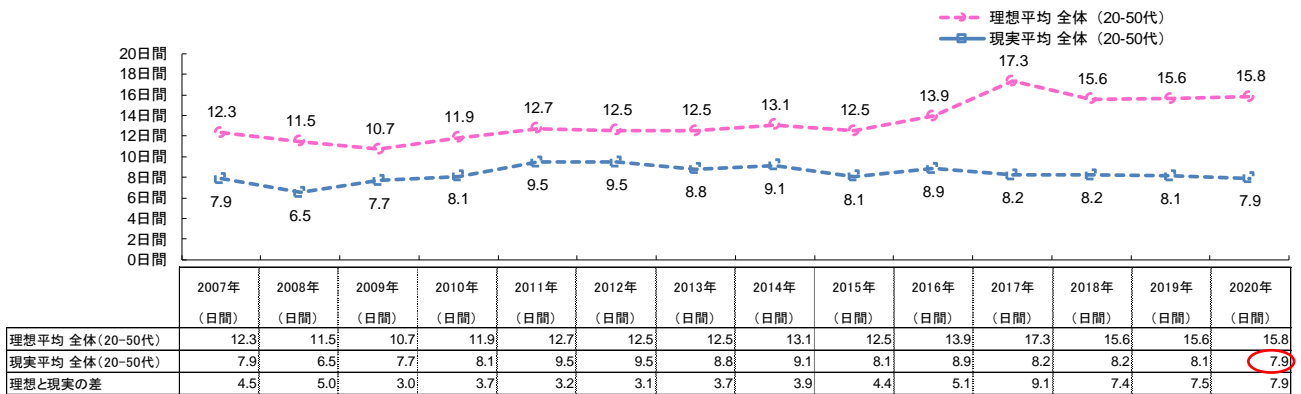
**今年の夏休みの平均日数は「7.9日間」と例年より短縮！
夏休みの日数が「減る予定」と回答した人は昨年から2倍以上に増加！
小中学校等の夏休み短縮の影響から例年より長期休暇の色合いが薄まる！？**

○今年の夏休みの平均日数は「7.9日間」となり、2010年以降で最も短い夏休みになる結果となりました。また、「理想」の夏休みの日数は「15.8日間」となり、「理想」と「現実」の夏休みの日数のギャップは「7.9日間」と1週間以上の乖離がみられました。

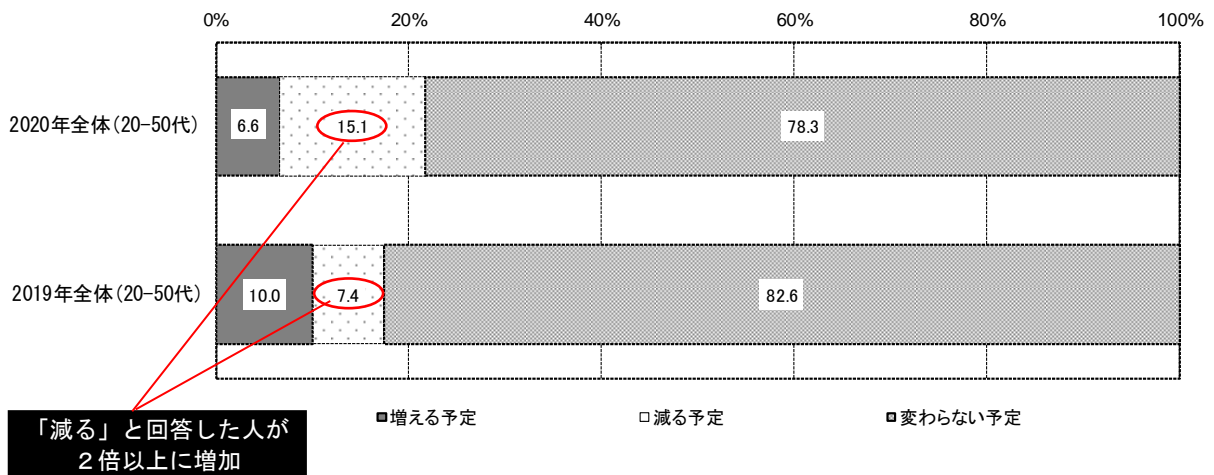
○次に、昨年と比較した夏休みの日数について聞いてみたところ、「減る予定」と回答した人は15.1%と、昨年比べ2倍以上に増加する結果となりました。

○小中学校等の夏休み短縮の影響もあってか、今年の夏休みは例年より長期休暇の色合いが薄まっているようです。

■「理想」と「現実」の夏休み日数の推移



■前年と比較した夏休み日数の増減



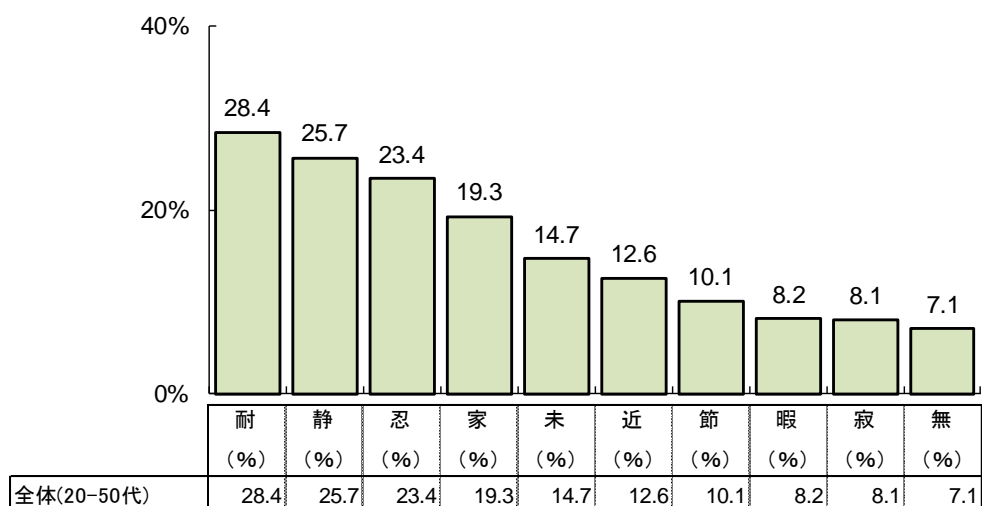
1. 夏休みについて

(4) 今年の夏休みを表す漢字

**今年の夏休みを表す漢字のトップ3は「耐」「静」「忍」！
今年の夏休みは「静」かに「耐」え「忍」ぶことが必要！？**

- 今年の夏休みを表す漢字について聞いてみたところ、トップは「耐」の漢字が選ばれる結果となりました。新型コロナウイルスの影響により、思い通りの夏休みの過ごし方ができないなか、今年の夏休みは感染拡大防止のため、「耐」える必要があると考える人が多いようです。
- また、2位には「静」、3位には「忍」の漢字が選ばれたほか、自宅でゆっくり過ごすことから「家」、予定が決められないことから「未」など新型コロナウイルスの影響をふまえた今年の夏休みの過ごし方を表す漢字が並ぶ結果となりました。本来であれば、旅行やレジャーなど夏休みを楽しみにしている人が多いですが、今年の夏休みは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「静」かに「耐」え「忍」ぶことが必要と考える人が多いようです。

■今年の夏休みを表す漢字（3つまで回答）



1. 夏休みについて

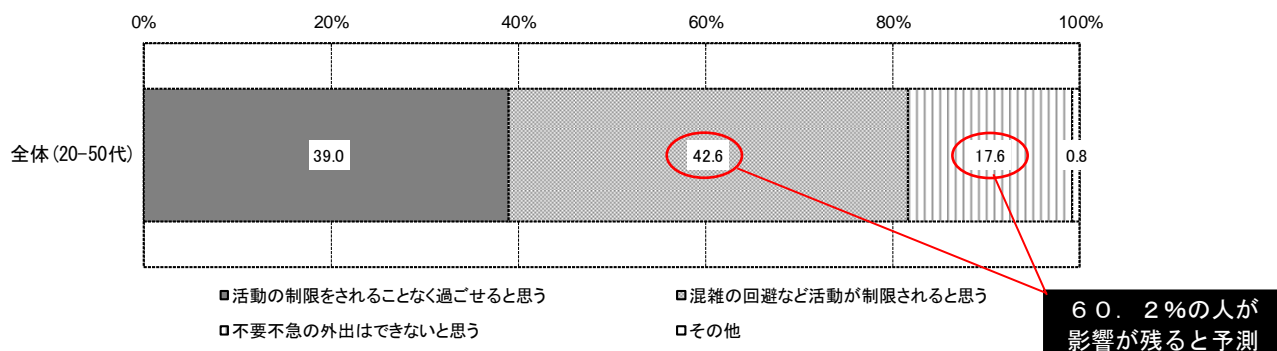
(5) 来年の夏休みの過ごし方

約6割の人が来年も新型コロナウイルスの影響が残ると予測！

○今年の夏休みは新型コロナウイルスの終息の見通しが立たないなか、使う金額や過ごし方に大きな制限がありますが、2021年の夏休みについて、現時点でどのような過ごし方ができると考えているか聞いてみました。

○全体のうち、「活動の制限をされることなく過ごせると思う」(39.0%)という意見が約4割を占めました。一方、「混雑の回避など活動が制限されると思う」(42.6%)、「不要不急の外出はできないと思う」(17.6%)といった意見が合計で約6割(60.2%)という結果となり、来年の夏休みにも新型コロナウイルスの影響が残ると考えている人が多いことが分かりました。

■来年の夏休みの過ごし方



2. 夏のボーナスについて

**今年の夏のボーナスは4人に1人が「減る予定」と回答！
ボーナスからお小遣いをもらっている夫は昨年の3人に1人から4人に1人に減少！
夫にお小遣いをあげる妻のうち2割がお小遣い金額を「減らす」と回答！
世のお父さんにとっても「我慢の夏」に！？**

- 夏のボーナスについて聞いてみたところ、昨年より「増える予定」と回答した人は全体の3.0%にとどまった一方、およそ4人に1人（24.3%）が「減る予定」と回答し、新型コロナウイルスの影響により経済環境や雇用環境の悪化が著しいなか、夏のボーナスを減らす企業が多いことが分かりました。
- また、夏のボーナスの使い道については、「預貯金」と回答した人の割合が約7割（69.2%）を占め、新型コロナウイルスの感染拡大による将来への不安や、外出自粛の影響により旅行やレジャーなどへの使い道が制限されることから、夏のボーナスを消費に回す傾向は弱いようです。
- 次に、夏のボーナスのうち、世のお父さんのお小遣いにまわる割合を調査したところ、夫に夏のボーナスから「お小遣いをあげる予定」と回答した妻の割合はわずか4人に1人（25.1%）と、昨年の3人に1人（31.4%）から6.3ポイント減少する結果となりました。また、そのうち2割（20.0%）がお小遣いを「減らす予定」と回答しました。新型コロナウイルスの影響により飲み会など息抜きの機会が減っていますが、夏のボーナスからのお小遣いも減らされてしまうという、世のお父さんにとっては少し悲しい結果がみてとれます。

～チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 チーフエコノミスト 小玉 祐一



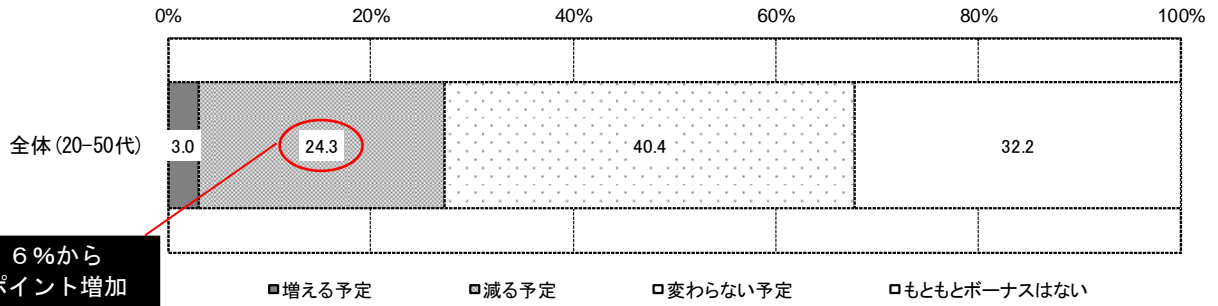
●今年の夏のボーナスについて

夏のボーナスが昨年より「増える予定」と回答した人は、全体のわずか3.0%にとどまりました。一昨年は13.1%、昨年は9.4%が「増えた」と回答しており、今年是一段と厳しさを増しています。

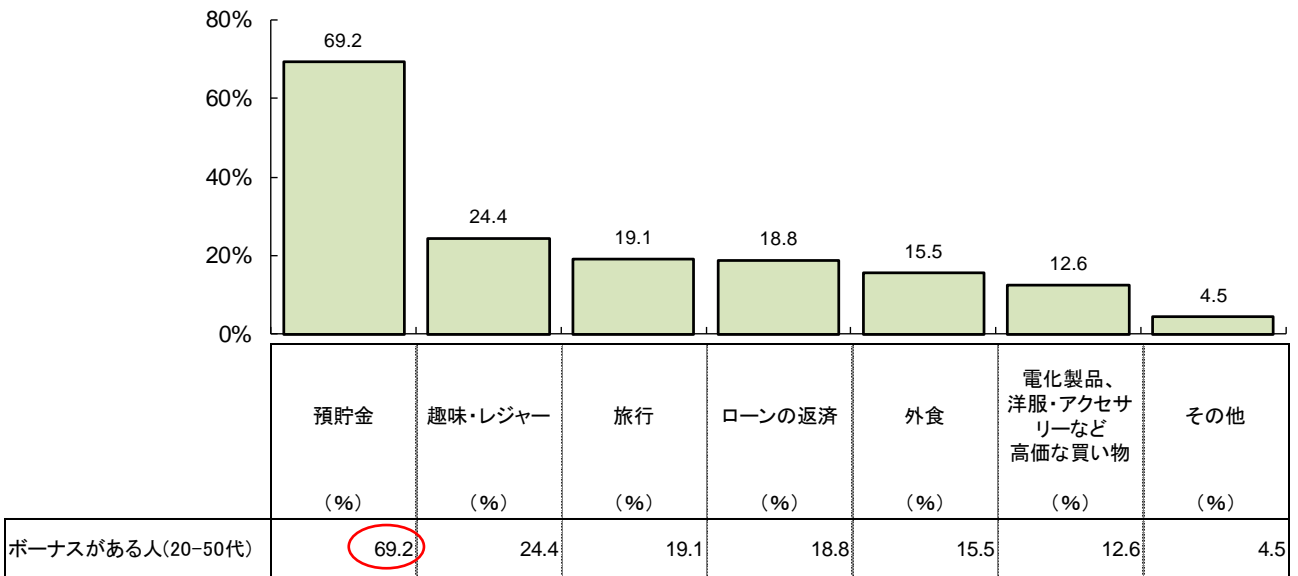
経団連が6月17日に発表した2020年夏のボーナスの1次集計結果によると、大手企業の平均妥結額は前年から6.0%減少し、リーマンショック以来の大幅な落ち込みとなっています。ボーナスは月例給よりも景気動向を敏感に反映しやすく、世界経済が100年に一度とも言われる景気後退に直面するなかでは、やむを得ない結果と言えます。

こうしたなか、夫にお小遣いを「あげる予定がある」という回答が25.1%と、昨年の31.4%から減少しました。このうち20.0%が金額を「減らす予定」としているのは、世の中のお父さんにとってショッキングです。しかし、ボーナスが大きく減るなかでは、「家庭内春闘」の交渉難航は必至と思われれます。

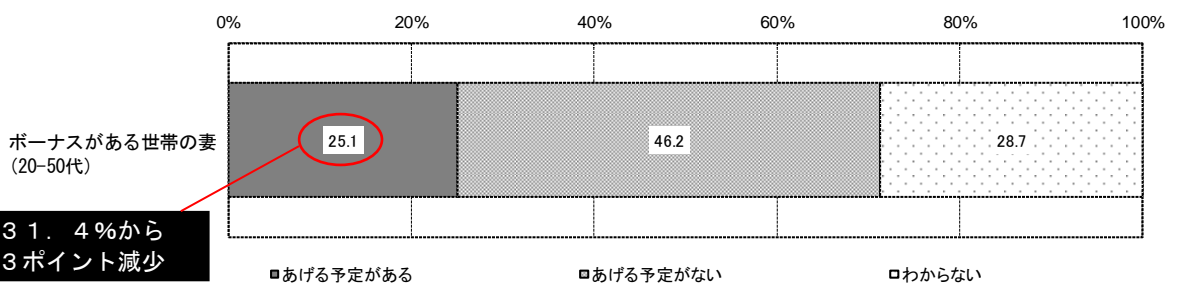
■昨年と比較した夏のボーナスの増減



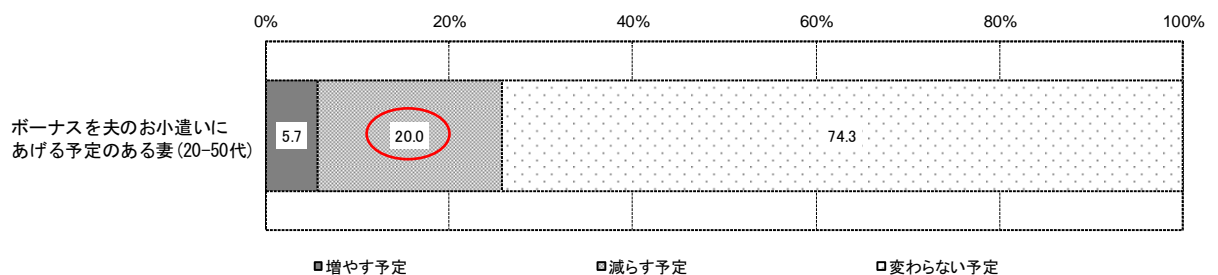
■夏のボーナスの使い道（複数回答）



■ボーナスから夫にお小遣いをあげる予定



■昨年と比較した夫にあげるお小遣い金額の増減

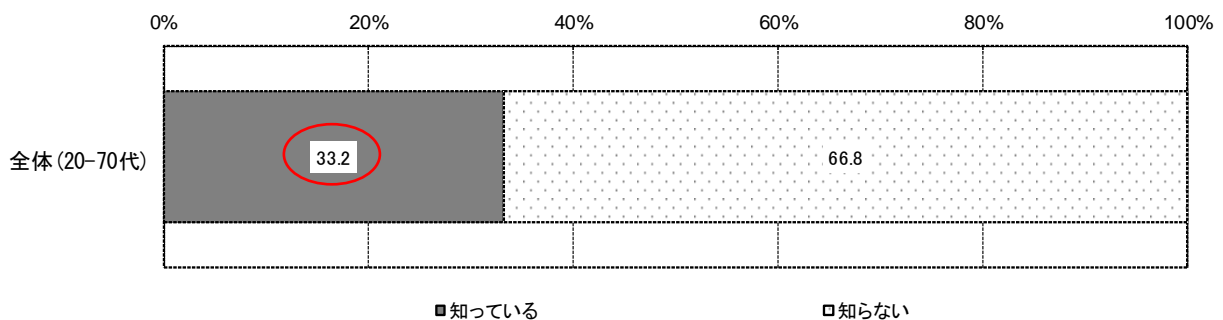


3. お盆玉について

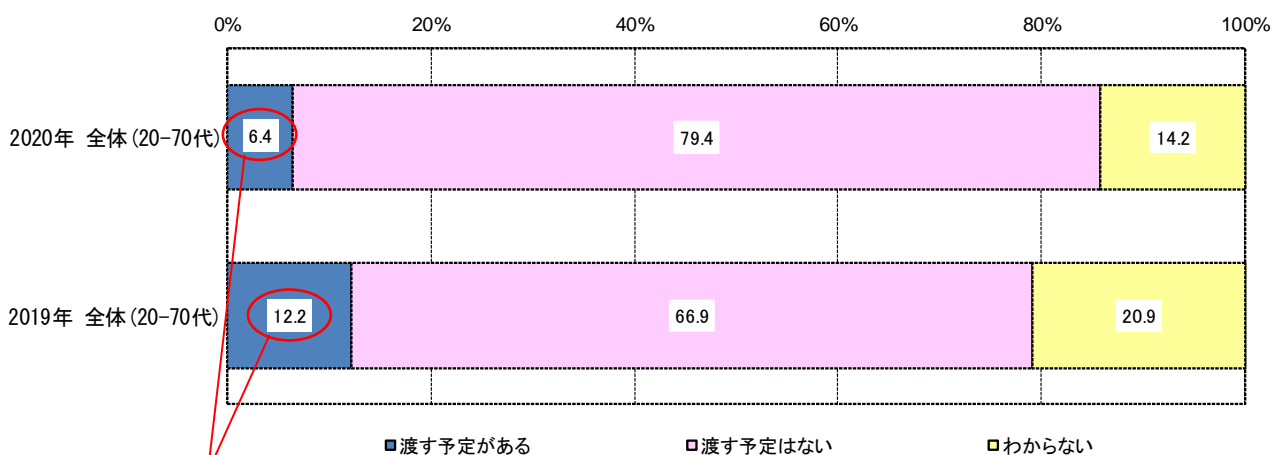
**お盆期間のお小遣い「お盆玉」は約3人に1人が認知！
新型コロナウイルスによる帰省の中止が影響し、「渡す予定」の人は半減！
子どもたちにとってはお小遣いがもらえない寂しい夏に！？**

- 夏休みの帰省が相次ぐお盆の時期を中心に、孫との行楽費用やランドセルの購入など、孫がいるシニア層をターゲットとして商戦が繰り広げられます。特に、お盆期間などに孫や親戚の子どもに渡すお小遣いは「お盆玉」と呼ばれ、専用のポチ袋が一斉に販売されるなど新しい習慣として徐々に浸透しつつあるようです。
- 20代から70代の人に、お盆期間などに子どもに渡すお小遣いを「お盆玉」と呼ぶことを知っているか聞いてみたところ、およそ3人に1人（33.2%）が「知っている」と回答しました。「お年玉」のように広く認知される日も遠くないかもしれません。
- また、20代から70代でお盆玉を「渡す予定がある」と回答した人の割合は6.4%と、昨年の12.2%に比べて、およそ半数に減少しました。新型コロナウイルスの影響により帰省の中止を決める人が多いなか、子どもたちにとってはお小遣いがもらえないという寂しい結果がみえてきました。

■「お盆玉」の認知度について



■「お盆玉」を渡す予定の有無



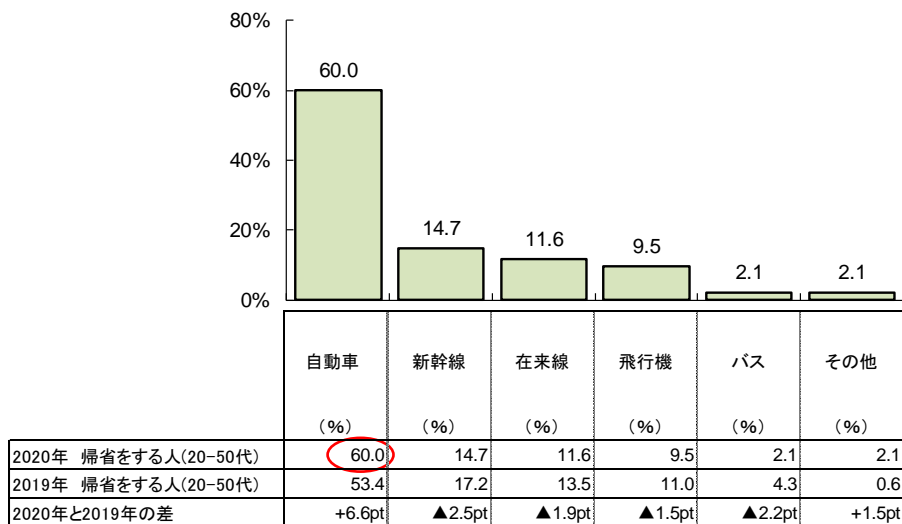
渡す予定がある人が半減

4. 夏の帰省について

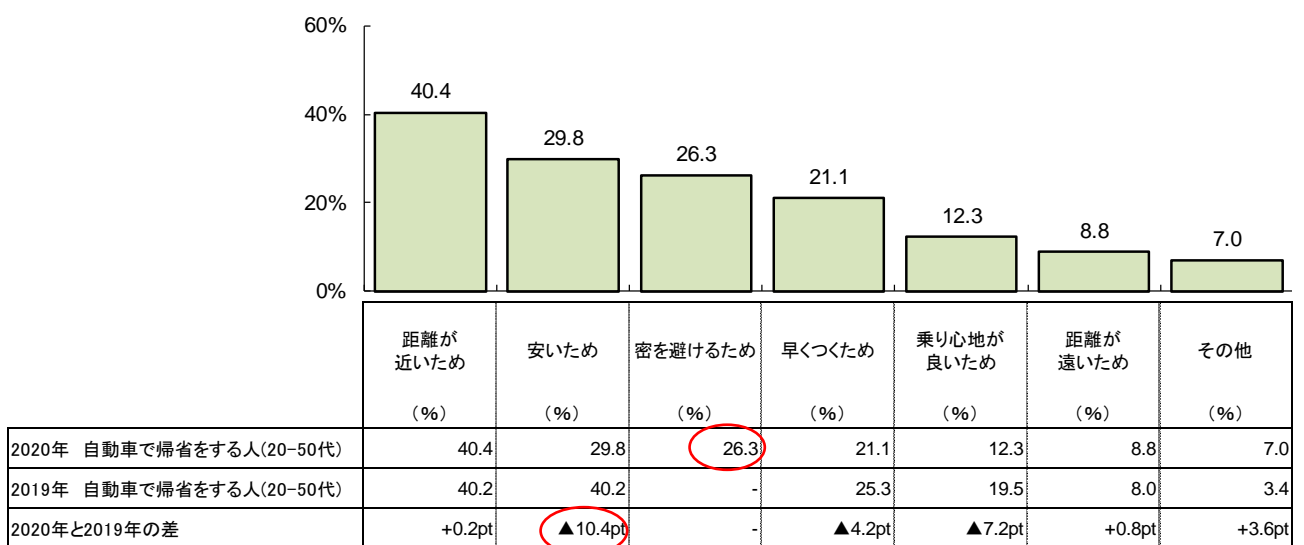
**帰省をすると回答した人の約6割が帰省の手段に「自動車」を選択！
帰省手段を選ぶ基準は「安さ」から「安心・安全」にシフト！？**

- 今年の夏休みに帰省をすると回答した人に、帰省の手段について聞いたところ、「自動車」と回答した人が60.0%と最も多く、昨年より6.6ポイント増加しました。次いで「新幹線」(14.7%)、「在来線」(11.6%)が多い結果となりました。
- また、帰省の手段で「自動車」を選んだ人に理由を聞いたところ、昨年40.2%で最も多かった「安いため」が29.8%と、昨年より10.4ポイント減少した一方、「密を避けるため」と回答した人が26.3%と一定数おり、他人との接触を極力減らすことができることも、帰省手段に「自動車」を選ぶ理由となっているようです。帰省をする人は今年減少していますが、そのなかでも、帰省の手段を決める基準が費用面から新型コロナウイルス感染防止をふまえた安心・安全面にシフトしていくのかもしれませんが。

■帰省の手段



■帰省の手段に「自動車」を選んだ理由（複数回答）



以上